

柔道しずおか

第5号

平成13年2月 静岡県柔道協会発行

事務局 〒421-2306 静岡市平野1-1 永田重郎
TEL <054>293-2035 FAX <054>293-2335

巻頭言 — 富山国体を視察して —

柔道に燃えた北陸小杉の町

静岡県柔道協会副会長

飯田 稔

(富山国体視察員)

第55回国民体育大会柔道競技

会場、富山県射水郡小杉町は富山県のほぼ中央部に位置し、東の県都富山市、西の商都高岡市の中間地点の距離にあり、富山平野の中央部にあり利便性の良さ、地理的好条件で近年は日本海側最大級の住宅地として発展している。

人口三万二〇〇〇人、もともと主産業は農業中心(米、果樹(りんご・梨)である。

また、町には富山県立大、福祉短大、衛生研究所など学術研究機関、学校関係では高校一校(小杉高校) 中学校二校、小学校六校、他警察署、消防署、県民自然公園、ゴルフ場二カ所、体育館、総合体育センター(柔道会場)、文化ホール(ラポール)等教育施設の充実した町であった。

特に文化ホール(柔道計量会場)は、県内屈指の音響空間を

文化の町であることを象徴していた。

大会開始式当日の音楽効果(中、高の吹奏楽、合唱、幼小の公開演技)等は見事だった。さらに、老若幼児混合でのエアロビクス体操なども体育の普及、音楽、芸術の水準の高さを知ることができた。



小杉中の生徒より贈られた色紙を披露する飯田副会長

誇る大ホール、及び舞台はクラシックを中心としたオーケストラも演奏できる設備であり、まさに文武両道の教育理念をもつ

「官民一体」の役員組織。やや古い言葉の響きではあるが、正にこの言葉が今回の大会運営の基盤になっていたようだ。

競技会役員として町の助役が陣頭指揮、以下全職員一九一名が大会にあたった。大会期間の土・日は勿論、平日においても役場窓口は各課当番一名のみで町民に対応、町民も大会を理解、執務には支障をきたすことなく協力してくれたようだ。さらに大きな力となっていた組織が、町民協力員(町体協、町柔道組織、体育指導員、消防団、交通指導員、老人クラブ、婦人会、J A 婦人部、自主ボランティア、町医療機関)。その他、宿泊関係の民宿では、大勢の町民が選手と和やかな接触をもつことができたようだ。

富山市を中心に、全般的に華やかさはなかったが、心のこもった歓迎は各所にみられた。視察の初日、富山市の宿舎に帰る途中、富山県立近代美術館に立ち寄った。世界グラフィックデザイン展が開催中、入場観覧料一般一、〇〇〇円が国体関係者ということでサービスの恩典に浴することができた。主旨は映像グラフィックの時代に対し、世界最先端をいく、手作りポスターの力強さを強調、それらを感じると共に、柔道においても伝統の精神、並びに技術を再確認する必要性を感じた。

〈富山国体レポート〉

大活躍!! 成年19年ぶり3位入賞

＝ 監督 宇佐美 博之 ＝

平成12年10月15日(日)～17日(火)富山県小杉町、総合体育センターにおいて柔道競技が開催され、静岡県チームは成年男子と東海大会の予選を勝ち抜いた少年男子、成年・少年女子を加えたすべての種目、4チームをエントリして静岡県チーム全体が意気揚々と富山入りをしました。

第1日目は、少年男子と成年・少年女子の第1回戦は、強豪チームばかり各3種目とも善戦しましたが、惜しくも敗退しました。

第2日目は、いよいよ成年の試合が始まる。

昼前からアップするため会場入りし、1回戦は愛媛県と対戦し3対0、2回戦は長野県を4対1と快勝し、2日目の試合が終わった、この日は試合と試合の待ち時間が長く、ましてはその日の最終試合のため緊張の糸が切れないように、常に次の試合を意識させ、試合のために「富山に来た」という気持ちを認識させ、試合のためのコンディショニングづくりを促した。

昨日の試合の流れと打って変わって休む暇もなく、勝てば次々と試合に臨む。勝負の日である大会3日目、3回戦は埼玉

県、2対0の試合展開を予想していたが、先鋒は引き分け、次鋒は試合開始早々の背負い投げで有効を先取りし優勢勝ち、中堅の対戦相手は新鋭の埼玉大学の野瀬選手で、大原選手の必ず勝つという意気込みが伝わってくる



手を見事腕挫十字固めで一本勝ちで大金星、次鋒は引き分け、奈良県は後の副将、大将がしっかりとしているため、中堅でどうしても一本勝ちが欲しかったが、技有りの優勢勝ち、副将全日本2位の旭化成の村元選手と

五分五分の試合展開であったが、2分過ぎ赤豊のところまで村元選手の払い腰が炸裂して一本負け、大将の相手も全日本3位の養父選手に対して終始攻めるが体重差もあって、見せ掛けの反則を取られ警告負け、2対2の引き分けの結果に終わり代表戦。代表戦になれば静岡は大村昌弘選手に決まっていたが、予想通り相手チームは村元選手、掲示板の名前を見て副将戦の払い腰が目に見え、大村選手はこれからも、まだまだ長い選手生活の勉強だと思ひ、試合場に送り出した。

予想に反し、試合1分過ぎ柔道の醍醐味と言わんばかり小外刈りがもの見事にきまり、その瞬間チーム全体は小躍りするほど盛り上がり、同時に会場全体がどよめいた。

ここまできたら決勝に駒を進めたい一念で臨んだ準決勝は千葉戦、先鋒が1分過ぎに背負いで有効を先取りするも、相手に再三寝技で勝負を挑まれ、これをよくしのいでいたが、ラスト30秒で横四方固めに抑え込まれ一本負け、次鋒で同点にもつていきかかったが引き分け、中堅戦は有効で先行したが、一本勝ちが欲しいため果敢に攻め、終了間際双手刈りを掛けたところをうまく返され、有効を取り返され引き分け、副将に託し攻めるが引き分け、大将に期待を残したが、善戦の奈良戦での疲れか、糸が切れたかのように2分30秒、背負い投げで一本負けした。

るような試合展開であったが結果は引き分け、副将、大将も引き分けで辛くも1対0で勝ちを取め、4回戦に駒を進める。

4回戦は、強豪奈良県との対戦で、先鋒が天理大学の石松選



果は目に見えている、「ここで負けければ、今までの苦労がなくなるぞ、最後、最後まで残り1回、自分のすべてを出して試合に臨もう。」と個々の選手の尻を叩き、3位決定戦の京都戦に臨む。

本年9月の関西遠征（兵庫県警察・京都府警察）で京都府警の選手が、5人中4人京都府を

代表して出場している。相手の癖も分かっているが、反面こちらの手の内もわかっている試合である。

先鋒は五分五分の試合で引き分け、次鋒は1分過ぎ掬投げ技有り、そして残り7秒で背負い投げが決まり合わせ技で一本勝ち、中堅は同じような体型で攻

め喘いでいる間に試合は引き分けに終わり、副将は練習試合では有効勝ちで勝っている選手であったが、うまく逃げられて引き分け、大將は最後の力を振り絞って攻めるも引き分けで1対0、19年ぶりの3位入賞を果たした。

19年前の滋賀国体での、選手時代の気持ちは「やっとならなかつたが、滋賀国体監督の安齊先生、コーチの田中先生の気持ちと同じように、選手時代とは違い何倍にも感動と感激で胸を膨らませ、涙を隠しながら選手と握手を交わし、本当に有り難うという気持ちでいっぱいになった。

試合場から控室に戻りコーチ陣と目を合わせたとき、「よかつた」と言いながら、朝食から何も食べていないことを思い出し「腹減ったね」という言葉で緊張の糸が切れた。

試合を振り返り、先鋒の伊藤選手は全国大会の経験もない者が、自分の力以上の成績を上げチームの先陣として役目を果たしてくれた。

次鋒の花澤選手は埼玉戦、京都戦の接戦において唯一勝点を取り、チームを勝利に導き貢献



してくれた。

中堅大原選手は、チームのキャプテンとしてよくチームを内面からまとめ引張つてくれ、今年5月に膝の手術をし再起をかけたこの試合において見事に復帰を果たし、その実力を十二分に発揮してくれた。

副将大村昌弘選手は、京都戦の代表戦でもわかる通り、静岡のポイントゲッターとして柔道の魅力をこの富山県において見せてくれ、静岡の大村を全国に知らしめた。

大將大村恭一選手は、90kg級の選手でありながら、まして一番プレッシャーのかかるポジションで、静岡の大將として相応しい試合をしてくれた。

このメンバーが誰か一人でも欠けていたら3位入賞は程遠いものであったと思います。選手皆さん、本当にご苦労様でした。

最後に、このメンバーの監督にして頂いた柔道協会会長をはじめ、各協会役員の皆様に紙面上をお借りして厚く御礼を申し上げます。

2000年とやま国体 静岡県柔道競技選手団一覽

＜成年男子＞

総監督 中西儀久(会社役員) 監督 根本谷信一(市立沼津高教員)
 副監督 野田昭一(静学高教員) コーチ 沼野由香利(藤枝南女教員)
 総務 富田偉沙生(清水東高教員) 大将 漆畑加奈子(国士館大学)
 〃 加藤伸司(常葉学園教員)
 主務 西川孝治(静岡西高教員) 監督 間宮幸男(興誠高教員)
 トレーナー 伊藤武治(浜北西高教員) コーチ 宮本昌人(常葉橋教員)
 〃 梶原和洋(御殿場高教員) コーチ 渡部直樹(静岡学園教員)

＜少年男子＞

先鋒 山下悟史(静岡学園高) 監督 勝呂良三(庵原高教員)
 〃 吉澤伸悟(〃) 〃 須田直之(静岡商高教員)
 〃 青木真也(〃) 〃 須田直之(静岡商高教員)
 〃 野中朗浩(〃) 〃 須田直之(静岡商高教員)
 〃 相良健太(藤枝明誠高) 〃 須田直之(静岡商高教員)

＜成年女子＞

中堅 大原尚喜(東洋水産) 監督 勝呂良三(庵原高教員)
 副将 大村昌弘(中央大学) コーチ 須田直之(静岡商高教員)
 大将 大村恭一(県警機動隊) 〃 須田直之(静岡商高教員)

中堅 杉山まゆ美(東海金翔洋高) 監督 山崎美和子(〃)
 大将 山崎美和子(〃)



とやま国体に

出場して

少年男子 吉澤伸悟
(静岡学園高)

ぼくは、高校生活最後の年、インター・ハイとジュニアとも落としてしまいました。だからなんとしても国体予選だけは優勝したい一念で臨みました。結果、なんとか勝ち抜いて国体選手に選ばれ、ほんとうにうれしかったです。

強化合宿など大変でしたけれど、日ごろの学校での猛練習の積み重ねがあるので、とても充実したものになりました。

いよいよ富山県小杉町に乗り込むときがきました。小杉町は自然がいつぱいの素晴らしい所でした。また、会場はさすが国体会場、すごいなあと思いました。地元のみなさんが親切にやさしくお世話してくださり、ほんとうにありがたく思いました。

監督、コーチには、「思いきって、自分の柔道をしてこい。」と励まされました。緒戦が強豪の神奈川との対戦だったので、みんな「悔いの残らないような試合をしよう」と話し合いました。



いよいよ、本番。がむしゃらに掛けまくりました。背負い投げで対手を投げた時も「やった！」というような実感はありませんでした。終わってみて勝ちを宣告され、初めて、全国レベルの大会で勝った喜びをかみしめました。

今年の目標は、最後のジュニアのチャンス、予選を勝ち抜いてなんとか本大会に出場することです。大学に進学、今まで以上に大変な四年間となると思いますが、柔道と勉強とを両立させるようがんばりたいと思います。

試合記録

10月15日

少年男子一回戦

神奈川 3 — 2 静岡
 先亀崎俊昭△(大内返) ◎山下悟史
 次加瀬正行△(背負投) ◎吉澤伸悟
 中谷口徹○(警告) △青木真也
 副関根健介○(大外刈) △野中朗浩
 大村上和幸○(合せ技) △相良健太

少年女子一回戦

京都 2 — 1 静岡
 先今村貴恵△(横四方固) ○風間美佳
 中中川愛子○(崩髪鬘固) △杉山まゆ美
 大笹潤佳代○(内股) △山崎美和子

10月16日

成年男子一回戦

静岡 3 — 0 愛媛
 先伊藤洋邦○(隅落) △菅野幸太
 次花澤祐介 × 重松誠司
 中大原尚喜○(隅落) △前田満山
 副大村昌弘○(体落) △二宮大輔
 大大村恭一 × 堀内真

10月17日

三回戦

静岡 1 — 0 埼玉
 先伊藤洋邦 × 吉岡博之
 次花澤祐介○(一本背負) △向井孝之
 中大原尚喜 × 野瀬英豪
 副大村昌弘 × 有川光誠
 大大村恭一 × 寺本裕輝

10月16日

準決勝

静岡 0 — 2 千葉
 先伊藤洋邦△ ○佐藤博昭
 次花澤祐介 × 中村範政
 中大原尚喜 × 岩下一也
 副大村昌弘 × 加藤博仁
 大大村恭一△(一本背負) ○中村和裕

10月17日

三位決定戦

静岡 1 — 0 京都
 先伊藤洋邦 × 金辻直人
 次花澤祐介○(掬背投) △渡辺正喜
 中大原尚喜 × 山元一步
 副大村昌弘 × 西村崇
 大大村恭一 × 森本剛



試合に臨む少年男子チーム 左から 相良・野中・青木・吉澤・山下

代表戦

村元辰寛△(小外刈) ○大村昌弘

10月17日

準々決勝

奈良 2 — ② 静岡
 先石松和資△(懸十字固) ○伊藤洋邦
 次竹村俊哉 × 花澤祐介
 中鎌田範彦△(大外刈) ◎大原尚喜
 副村元辰寛○(払腰) △大村昌弘
 大養父直人○(警告) △大村恭一



好リードの監督コーチ陣



第23回全国高等学校柔道選手権静岡大会

柔道選手権静岡大会

平成13年1月27日(土)・28日(日)に静岡市北部体育館で開かれ、男子団体は、三年ぶりに静岡学園高チームが激戦の末優勝、全国大会への出場権を獲得した。成績は次のとおり

- 1位 静岡学園
- 2位 東海大翔洋
- 3位 沼津学園
- 3位 藤枝明誠
- (男子無差別級)
- 1位 青木真也(静岡学園)
- 2位 青山晃也(浜松商)
- 3位 植田佳徳(静岡学園)
- 3位 早坂 健(沼津学園)
- (女子)
- 48kg級
- 1位 鈴木則江(湖西)
- 52kg級
- 1位 吉田未由紀(静岡商)
- 57kg
- 1位 二俣啓子(市立沼津)
- 63kg級
- 1位 秋山夏紀(庵原)
- 70kg級
- 1位 井上鮎美(庵原)
- 78kg級
- 1位 池田牧子(市立沼津)
- 78kg超級
- 1位 中嶋三沙子(市立沼津)

柔道祭

平成12年4月30日(日) 草雜体育館で、第42回静岡県柔道祭が開かれた。

試合に先だって、協会表彰が行われた。

〈特別功労者〉

八段 望月映英

七段 鈴木金太郎

六段 青木和夫

五段 小久保欽平

〈功労者〉

七段 吉田 修・松本 忍

六段 内海隆治・北村光雄

水口 裕・殿岡崇康

磯部正博・増田佳明

五段 望月真次・三代照和

尾上雅春・永田敏雄

大山銃一・中村芳正

坂田好司

〈優秀選手〉

第14回全日本視覚障害者柔道大会 73kg級 優勝 平井満治

引き続き、講道館柔道形の部の競演があり、本年度は、四種目にわたり、東海四県「形」競技会の予選を兼ねて行われた。

〈投の形〉

〔東部〕 〆五段小山 岳 (富士柔道会)

〔西〕 三段木内好彦 (富士柔道会)

〔西〕 〆三段松野央一 (浜松市柔協)

〔西〕 三段氏原 誠

〈固の形〉

〔東部〕 〆二段加藤勝太 (富士柔道会)

〔東部〕 〆二段荻沢英幸

〈講道館護身術〉

〔中部〕 〆七段田中秀幸 (静岡)

〔西〕 〆六段熊谷幸洋 (滝井道場)

〔西〕 〆六段酒井義之 (江西柔友会)

〔西〕 〆六段中村寿一

〈五の形〉

〔東部〕 〆六段木内孝教 (富士柔道会)

〔東部〕 〆六段北村光雄

〔中部〕 〆七段永野哲夫

〔西〕 〆七段望月秋男

〔西〕 〆七段西島温行

〔西〕 〆六段磯部正博

審査の結果

〔投〕東部 小山・木内組

〔固〕東部 加藤・荻沢組

〔護身術〕中部 田中・熊谷組

〔五〕西部 西島・磯部組

それぞれ東海大会出場権を獲得した。

試合の結果は次のとおり。

〈小学校の部〉

1位 神士館

2位 福田柔道クラブ

3位 清水市体育協会

3位 田代道場

〈中学校の部〉

1位 静岡学園中

2位 田代道場

3位 田代道場

3位 原中

3位 新居中

〈高校の部〉

1位 浜松商業高

2位 静岡学園高

3位 東海大翔洋高

3位 藤枝明誠高

〈一般の部〉

1位 総合警備保障静岡

2位 浜北市柔道協会

3位 総合警備保障浜松

3位 滝井道場

〈優秀選手〉

〔小学生〕

平井 勝 (神士館)

永手ワシントン (福田柔ク)

〔中学生〕

山下純輝 (静岡学園中)

石原洋介 (田代道場)

〔高校生〕

新村誠也 (浜商)

青木真也 (静学)

〔一般〕

花澤裕介 (総合警備静岡)

松野 立 (浜北市柔協)

〈中学女子個人〉

44kg級

1位 栗原真琴 (富士宮二中)

2位 丹羽麻美 (浜松南都中)

3位 剣持友美 (安原道場)

3位 池田桂子 (藤枝柔俱)

52kg級

1位 村松香澄 (北浜中)

2位 遠藤昌美 (富士宮二中)

3位 内藤みゆき (錦田中)

3位 森下真衣 (北浜中)

63kg級

1位 永手直美 (福田中)

2位 杉山希美 (藤枝柔俱)

3位 緒方智美 (浜名中)

3位 田口裕子 (浜松南都中)

63kg超級

1位 松本笑嘉 (福田中)

2位 岡田紘味 (掛川柔俱)

3位 足立 恵 (藤枝柔俱)

3位 渡辺恵理 (新居中)

〔成年の部・町村対抗〕

1位 福田柔道クラブ

2位 清水町柔道会

3位 三ヶ日体育協会

〔少年A男子市対抗〕

1位 沼津学園高

2位 静岡学園高

3位 東海大翔洋高

3位 藤枝明誠高

〔少年A男子町村対抗〕

1位 大井川高

2位 気賀高

3位 沼津商業高

3位 小山高

〔少年A女子市対抗〕

1位 東海大翔洋高

2位 藤枝南女子高

3位 常葉学園高

3位 浜松工業高

〔少年A女子町村対抗〕

1位 庵原高

2位 大井川高

3位 気賀高

〔少年B男子市対抗〕

1位 静岡学園中

2位 富士宮第二中

3位 友愛道場

3位 高山柔道塾

〔少年B男子町村対抗〕

1位 新居中

2位 大井川中

3位 清水中

3位 葦山中

県民スポーツ祭

第54回静岡県民スポーツ祭柔道競技は11月12日(日)、浜北市体育館で開かれた。試合に先立って、特別表彰が行われた。

〈優秀選手賞〉

栗原真琴 (富士宮第二中学校)

〈優秀団体賞〉

富山国体成年男子チーム

神士館道場少年チーム

にそれぞれ賞状、記念品が授与された。

試合結果は次のとおり

〔成年の部・市対抗〕

1位 浜北市柔道協会

2位 総合警備保障浜松

3位 総合警備保障静岡

3位 富士市柔道会

3位 富士市柔道会

- (少年B女子市対抗)
 - 1位 富士宮第二中
 - 2位 積志中
 - 3位 清水市体育協会
 - 3位 藤枝柔道倶楽部
- (少年B女子町村対抗)
 - 1位 福田柔道クラブ
 - 2位 新居中
 - 3位 大井川中
 - 3位 浜岡中
- (少年C男子市対抗)
 - 1位 神土館神山道場
 - 2位 清水市体育協会
 - 3位 東部柔道クラブ
 - 3位 藤枝柔道倶楽部
- (少年C男子町村対抗)
 - 1位 福田柔道クラブ
 - 2位 韭山柔道教室
 - 3位 伊豆長岡柔道会
 - 3位 新居町柔道少年団
- 総合では、
- (市対抗)
 - 1位 静岡市 10点
 - 2位 清水市 8点
 - 3位 浜松市 7点
 - 4位 藤枝市 6点
- (町村対抗)
 - 1位 大井川町 10点
 - 2位 福田町 8点
 - 3位 清水町 7点
 - 4位 新居町 6点

フランスで研修に励む

溝口紀子先生

静岡県立大学短期大学部助手

NSEP)の活動状況

の溝口紀子先生は、目下フランスにて研修留学中。全柔道連を介し、フランス柔道連盟より招聘を受けたもの。研修テーマは、

(1)国立スポーツ、体育研究所(I

(2)柔道教育一般、身体障害者教育状況

(3)クラブ組織および学校教育における子供のスポーツ活動体育活動状況



フランスでたくさんのことを学ばせていただいています。静岡の強化に結びつけたいです。



事務局だより

へH12年度主な行事を顧みる

- ◆4月2日 国体少年第2次選考会、並びに都道府県対抗全日本女子柔道選手権県予選を皮切りに、諸行事が消化されていきます。年内を通し毎土・日は、必ずといっていいほどの過密スケジュールですが、大会運営に当たる役員、審判のご協力に感謝します。
 - ◆4月30日 県柔道祭 協会主催の最大事業(詳しくは別記)。今年から一試合場、一試合実施に改善し好評を博した。
 - ◆5〜8月 中学・高校総体一色ながら、大学・高専大会も実施され、落合暉・舛田拡美(静大)が、全国大学選手権に出場。
 - ◆9月 全日本ジュニアで、風間美佳(市立沼津)が、女子52kg級で強豪を連覇し、第3位入賞を果たした。
 - ◆10月 第55回富山国体での活躍ぶりは別記のとおり。なお、祝勝会を12月10日(日)に静岡ブケ東海で開催、多数の参加を得て盛大に、監督・コーチ・選手を労うことができた。ご協力に感謝しています。
 - (その他の記録)
 - ◆4月29日 全日本柔道選手権大会
 - 本県出身出場者 大原尚喜(東洋水産)
 - ◆6月24・25日 全日本学生柔道優勝大会
 - 中央大 優勝 キャプテンとして大村昌弘(沼津学園高出身)が立役者となった。
 - ◆8月6日 全日本少年武道錬成大会
 - 神土館道場、優秀賞(プロック優勝)を獲得。
 - ◆8月 シドニーパラリンピック柔道90kg級に稲葉統也(静岡南部柔ク)が出場5位。
 - ◆11月25・26日 溝道館杯全日本体別柔道選手権大会で大原尚喜(東海大一中・一高出身)が90kg級で準優勝を果たした。
 - なお、全柔連より平成12年度後期強化指定選手として、男子90kg級④大原尚喜
 - 〃 100kg級⑥大村昌弘
 - 女子52kg級⑧風間美佳
 - 〃 44kg級⑩栗原真琴
- が選ばれている。
- 本年度から、平成15年国体に向け、県内でも強化選手及びコーチが、中学〜成年にわたって指定され、一段と拍車がかげられた。

主な協力団体

静岡県警察・総合警備保障(株)・十全会聖明病院・東洋水産・住友海上火災・関係諸大学(県内高校出身選手在学)

ご協力に感謝申し上げます。

第31回全国中学校柔道大会女子44kg級

優勝 栗原真琴 につづけ

平成12年8月21日より、大分県立総合体育館で行われた、第31回全国中学校柔道大会において、栗原真琴選手(富士宮第二中学校)が女子44kg級に本県代表として出場、見事優勝に輝いたことはわれらが柔道しずおかの少年少女選手たちにとってなにより励ましとなっている。激戦をくぐり抜け、ついに頂点に立った栗原選手の闘いぶりを見てみよう。

○ 合わせ技△河本万里(山口)
 ○ 僅差 △山岸絵美(長野)
 ○ 僅差 △伊部尚子(大阪)
 ○ 横四方固△藤原汐里(広島)
 ○ 僅差 △竹倉佳子(兵庫)

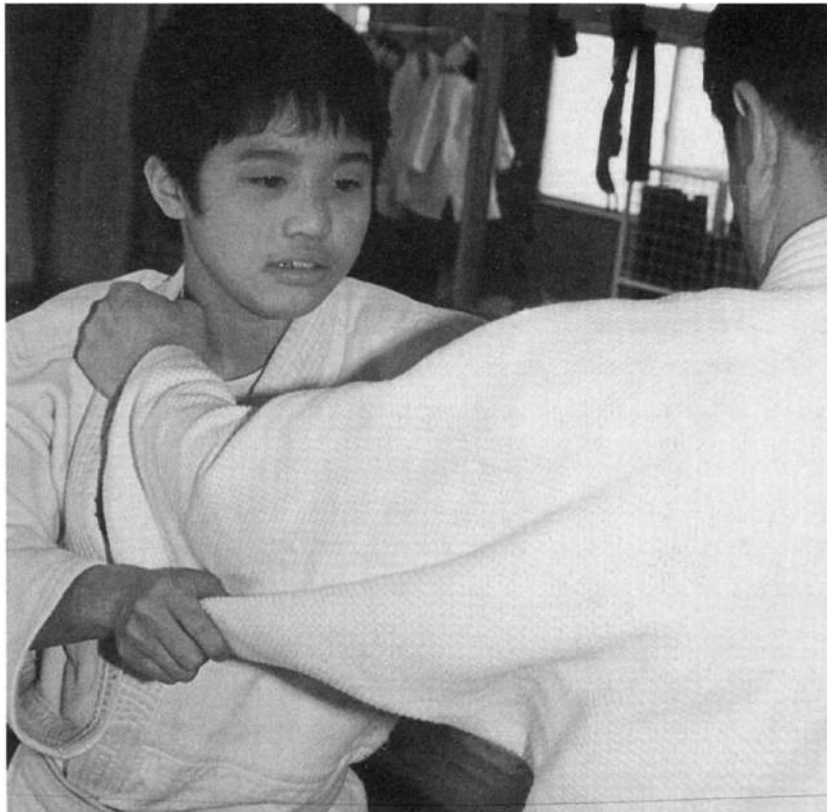
決勝までの五試合のうち三試合は僅差による判定勝ち——最後の最後まで粘り抜く彼女の精神力と、それを支える日ごろの猛練習あつての栄冠であることは言をまたない。

実は、わが県女子中学のホープ栗原選手は、神奈川県川崎市生まれ。お父さんの奨めによって、横浜市にある港武館で小学校5年生から柔道を始めたという。そして、すっかり柔道の魅力にとりつかれた真琴さんに、新たな転機が訪れる。

中学生になったとき、本格的に柔道に打ち込むために、お父

さんの大学時代の後輩である渡辺智之先生の門を叩くことになったのである。渡辺先生は富士宮第二中学の柔道部顧問、県下中学柔道指導者としてだけ知らぬ者はない名監督である。

場。しかし、この時は一勝一敗で予選落ち。当時、体重は42kgしかなく、参加選手中3番目に小さかったようだ。今年、44kg級が新設されたため、その階級に出場、ついに念願の全国優



そのためにはあえて親元を離れ、富士宮二中に入学したというわけである。

持ち前の負けじ魂で、一年生の夏には、48kg級県チャンピオンになり、早くも全国大会に出

トトレーニングを30分、放課後は部活動で平均4時間の練習に取り組んでいる。

本人の今後の目標は、「まず団体で県優勝し、全国制覇すること、個人種目は二の次です。」と話しているが、やはり、夢は「オリンピックで金メダルを取る」とであることはまちがいない。

去年の全日本女子では判定で一回戦負けに終わっているのが、新世紀の幕開けには、年上の選手たちに負けないよう技術・パワー・精神力・経験を着実に身につけさせたいと、渡辺監督は話してくれた。そして、本人の性格は明朗快活で、クヨクヨすることのないのんびりタイプ。しかし、こと柔道となると人一倍の努力家。天才ではなく日本一練習し、日本一規則正しい生活をしたから日本一になれた選手だと愛弟子を讃えてくれた。

富士宮二中柔道部は、現在、男子2年生9名、1年生5名、女子2年生6名、計20名。

県下の中学柔道選手のみならず、一度ぜひ練習に参加してみて下さい。

(写真・静岡新聞提供)